

メイクアップ 4つの注意点

おぞなりのメイク、マンネリのメイク…
よりプロの仕上がりを目指すなら、手抜きは禁物！
メイク前からしっかり準備を行うことが大切です。
基本的な4つの注意点をしっかり守って、
毎朝楽しく、美しく、自分を引き上げていきましょう！

自分の顔をじっくり観察！

自分らしさを活かすには、顔の輪郭、眉の形・生え方、パーツのバランスなどをよく観察することが必須。正面だけでなく、横顔や斜め顔などいろんな角度から見るのがポイントです。メイクの後も、顔と首の色の差や、チークの濃さや位置なども総チェック！

いきなりつけてはダメ！

ファンデーションやチークをつけるとき、パレットからスポンジやブラシにとってそのまま肌へつけていませんか。必ず一度、手の甲でなじませ、色具合をチェックしてから肌につけましょう。また、肌へ負担がかからないようにソフトタッチでのせていきましょう。

スポンジやブラシは清潔に！

直接肌にふれるスポンジやパフ、ブラシには、汗や皮脂、ホコリなどが染み込んでいます。そのままにしておくと、カビや雑菌の温床となるのも時間の問題。それぞれに合ったお手入れ方法でいつも清潔に保ちましょう。メイクの仕上がりもぐんとアップしますよ。

メイクは明るい場所で！

メイクとは、色の重なりが作る「光と影」が美しさの秘訣。暗い場所では光と影をうまく描けず、立体感のない平面的な顔に仕上がってしまいます。また、肌のくすみや目の下のクマ、ファンデーションの色むらや細かい部分の付き具合などを見逃してしまうことに。

キレイになるポイントメイク術 プラスひと手間ですぐ仕上がりをランクアップ！

コンシーラー 厚塗りせずもしっかりカバー
透明感や立体感も演出！



コンシーラーはコントロールカラーも兼ねているものをチョイス。ファンデーションでも隠しきれないシミやニキビ跡には、「**ピンク系**」で部分的にカバー。ハイライト効果のある「**パールホワイト系**」を鼻すじにのせると、自然な立体感が演出できます。範囲の広いくすみや、目の周りは、「**ピンク系+パールホワイト系**」でトーンアップ。

少量ずつ指の腹で軽くたたきこみながらなじませます。

チークパウダー ひとはけでトーンアップ
位置と方向には気をつけて。



チークは笑ったときに高くなる部分に入れるのが基本。ほお骨に沿ってこめかみ方向へ、ふんわりとぼかします。自然な発色で、肌なじみのいいものを選びましょう。

- ・内から外に、上へ上へとブラシを動かします。
- ・ブラシを覆かせず立てて使うのがポイント。

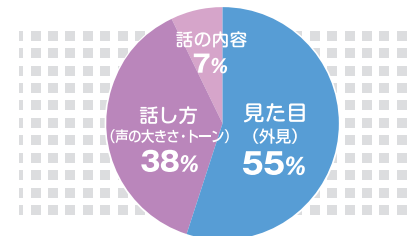
メイクしながら
スキンケア

“3秒”をあやつる メイクアップの新法則。

初対面の3秒。人の第一印象は、この一瞬で決まるといわれています。その主な要素となるのは「見た目」。なかでも「顔」は、印象を決定づける大きなポイントとなります。わずか3秒で「キレイ」を印象づけるには、スキンケアはもちろん、メイクにも磨きをかけ、「見られる意識」を高めておくことが欠かせません。

そこで大切なのが、正しいメイク法とアイテム選び。“もっとキレイに、ずっとキレイに”と、美に関してポジティブな女性が今注目しているのは、肌老化やトラブルの「予防と治療」を目指したメイクアイテム。美の上塗りでしかなかったメイクが、彩りを添えながら素肌をケアする役割もしてくれるのです。女性にとってこれほど心強いものはないですよ。

春は新しい出会いの多い季節。肌の内外から美しさを引き上げる“予防メイク”で、初対面の3秒をキレイに魅せましょう。



人の第一印象

半数以上の人

「第一印象=見た目」だと答えています！

あなたの肌の**メイクダメージ**は大丈夫!?

ダメージCheck✓

- メイクをしたまま寝てしまうことがある。
- メイクアイテムはブランドやデザインで選びがち。
- ファンデーションのスポンジやパフはほとんど洗わない。
- 発色が強い「**タール系色素**」を含む口紅やシャドウをよく使う。
- 最近、まつげが細くなったり、量が少なくなってきたように感じる。

WARNING
チェックが2つ以上の方は要注意!

「メイクオーバー」にご用心! >>>

「メイクアップ」とは、足りないものを補いながらも素材感を活かすという意味を持ちます。これとは対照に、素材感や自分らしさを隠し、別人のように変身させてしまうことを「メイクオーバー」と呼びます。個性はそのままに、より自分らしさや魅力を引き出す「メイクアップ」を心がけて。

最近のメイク事情

最近の流行メイクといえば、「ナチュラルメイク」。素肌感のある自然な仕上がりを 위해서는、ベースメイクが決め手になります。自分の肌質や肌色にあったカラー選びは言うまでもなく、もっと素肌を引き立たせるためには、肌に直接つける化粧下地をはじめ、コンシーラーやファンデーション、粉おしろいといったるまで、スキンケア効果のあるアイテムを選んで日中のケアも同時に行うことが得策です。

